サマーコミュニケーションスクールおよび学校生活に関するアンケート結果について

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で例年８月に行っているサマーコミュニケーションスクールを実施できませんでした。サマーコミュニケーションスクールは、地域の小・中学校、高等学校に通う聴覚障害児と保護者を対象にした交流会です。毎年、本校の通級指導教室に通う生徒がレクリエーション等を企画し交流をしたり、保護者を対象にした情報交換会をしたりしています。

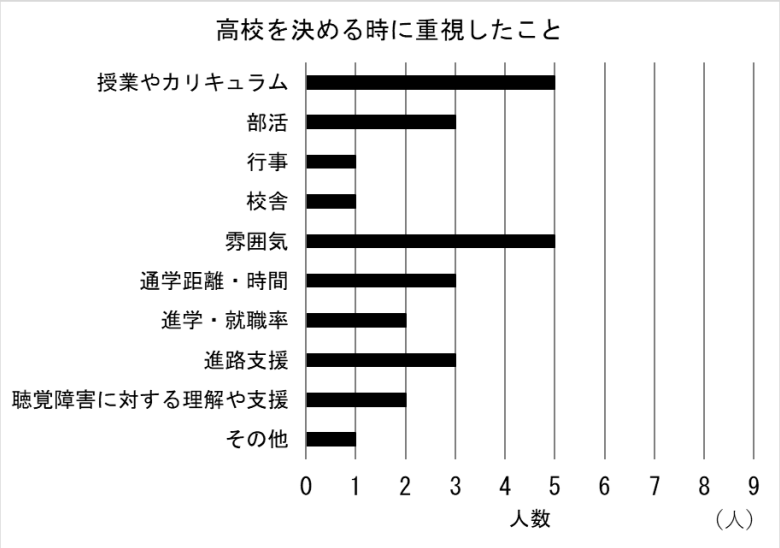
今年度は残念ながら実施できませんでしたが、過去にサマーコミュニケーションスクールに参加していただいた皆様に、これまでの経験を伺うアンケートを行いました。本校の通級指導教室の卒業生と保護者が中心となっています。その結果をまとめましたので、宜しければご参照ください。

高校生、大学生、社会人アンケート

７名の皆様にご回答をいただきました。

〇質問１：高校を選ぶ時に重視したことは何ですか？（複数回答可）

「授業やカリキュラム」「雰囲気」を重視した人が多かったです（各５名）。「部活」「通学距離・時間」「進路支援」についても重視しているようです。自分がその高校に行った時のことをイメージしながら選べると良いですね。



学校の先生や保護者とは、こんな話をしました！

通学距離は？通える距離かな？

他の学校も見てみよう！

受検する時に配慮してもらえるかな？

やりたいことがやれる学校にしよう！

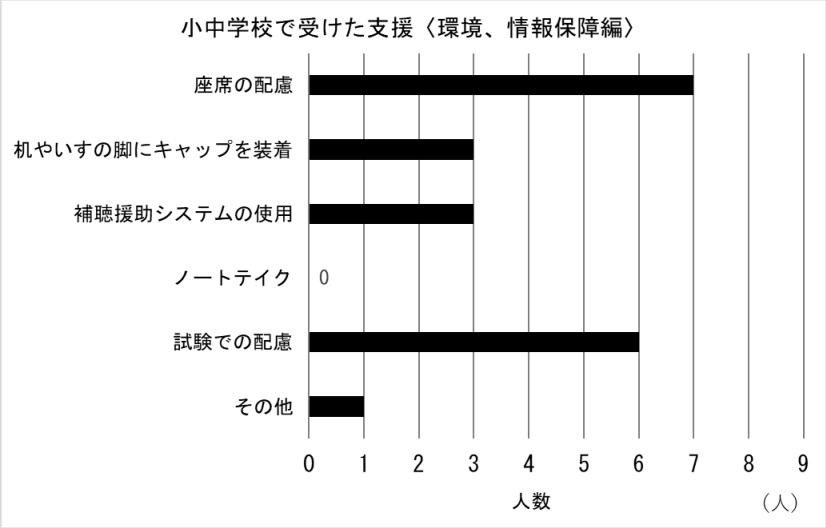
聴覚障害への理解やサポートはあるかな？

進路支援がしっかりしているところが良いね！

大学進学率はどうかな？

○質問2：小中学校でどんな支援を受けましたか？（複数回答可）

＜環境、情報保障編＞



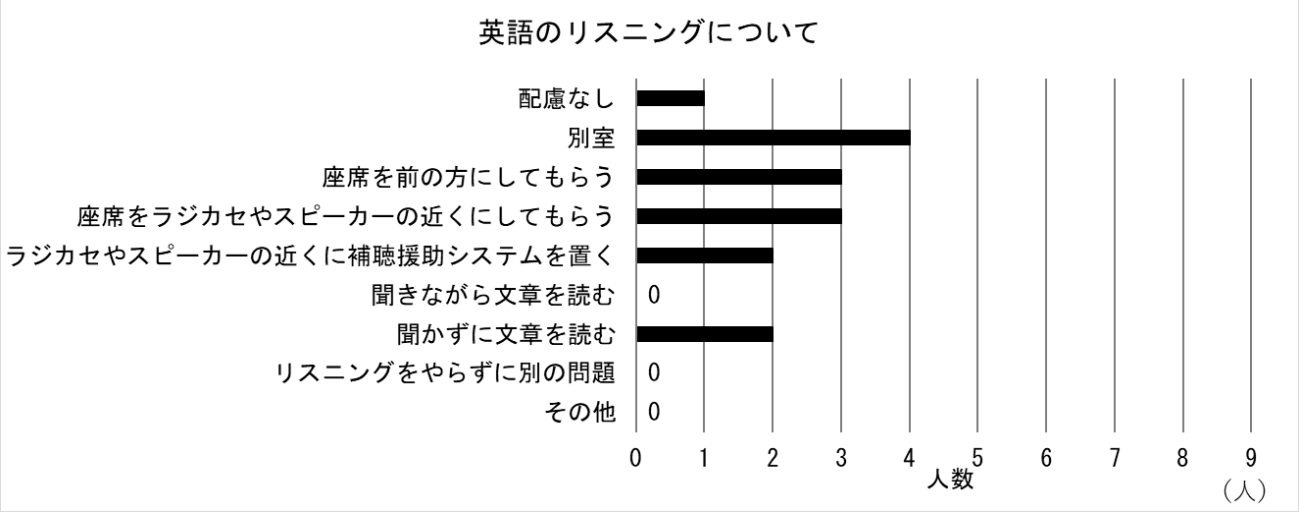
座席の配慮（7 名）、試験での配慮（7 名）を受けていた人が多かったです。中には、机や椅子の脚にキャップをつけてもらったり、補聴援助システムを使用してもらったりする人もいました。

補聴器や人工内耳は余計な音も大きく入ってきます。机や椅子の脚にキャップやテニスボールをつけると、騒音が防止され、うるさいと感じることが少なくなります。

補聴援助システムを使うと、話し手の声がマイクを通して、直接補聴器や人工内耳に届きます。

試験での配慮を受けてきた人が多かったですが、どんな配慮を受けてきたのでしょうか？

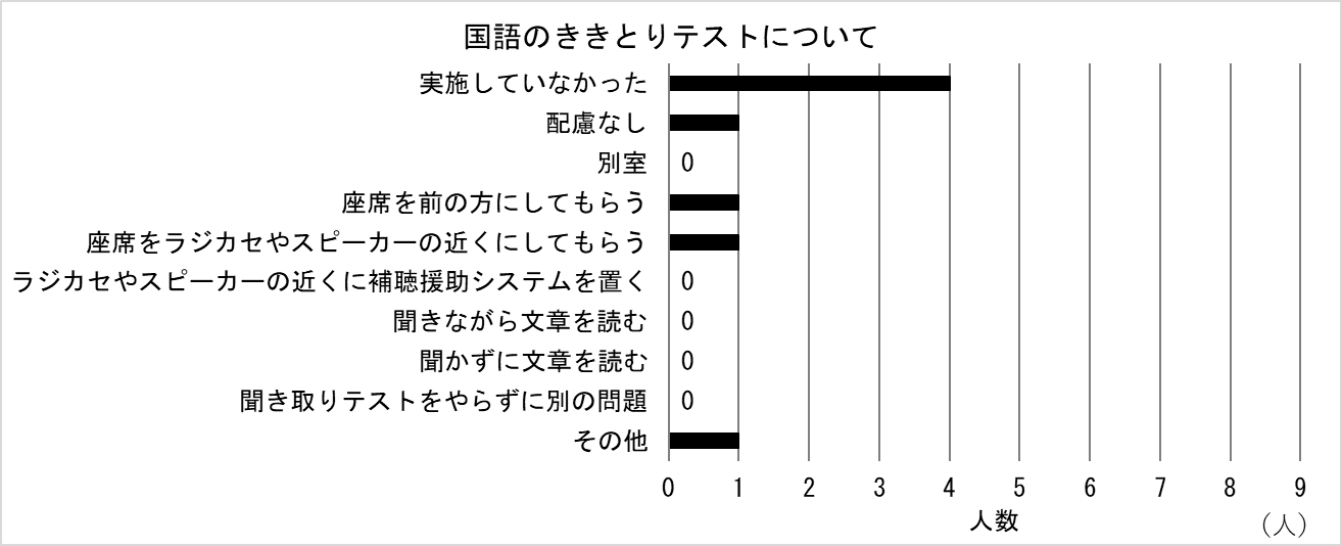
＜英語のリスニング編＞（複数回答可）



何らかの配慮を受けてきた人が多いようですね。英語検定では、障害者手帳(聴覚)を取得されている方はリスニング試験をテロップで受けることができます。学校で、英語検定と同じようにテロップを準備

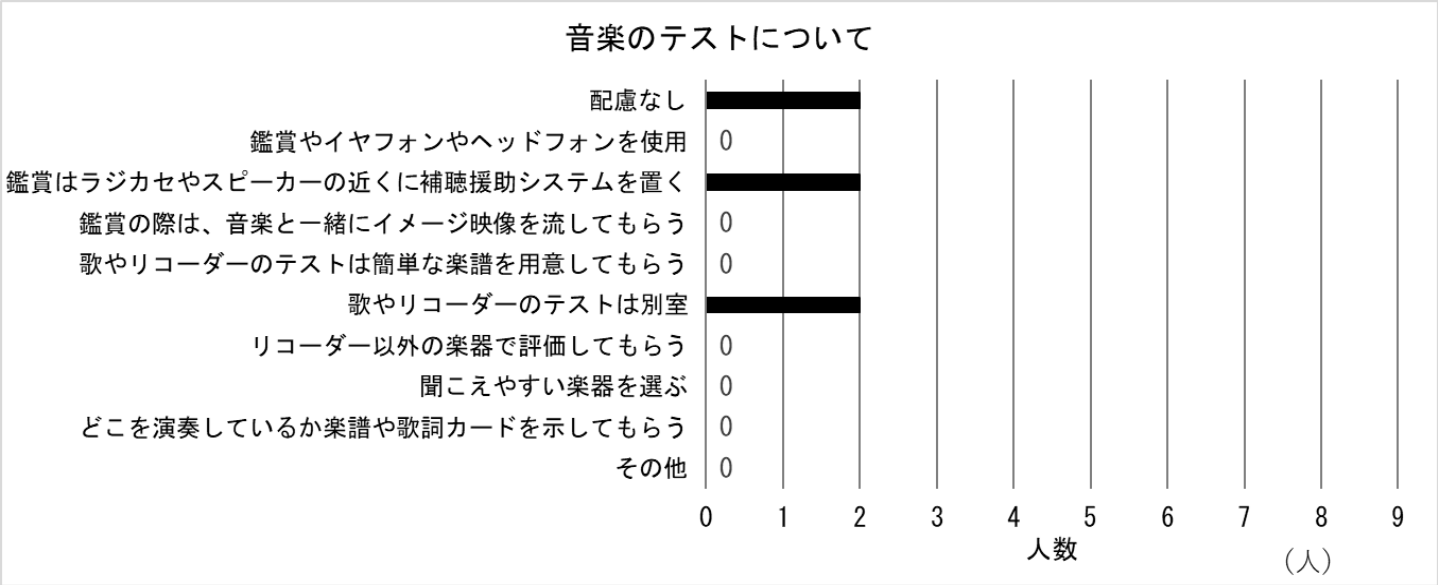
してもらうのは難しいようですが、リスニング文を紙で提示してもらう方法で受けているようです(「聞かずに文章を読む」を指します)。

＜国語の聞きとりテスト編＞（複数回答可）



実施していなかった学校が多いようです。その他には、「免除をしてもらったり、先生が肉声で実施したりしてくれた」とありました。肉声の方が機械音よりも聞きやすい、口形があった方がわかりやすいということがあります。

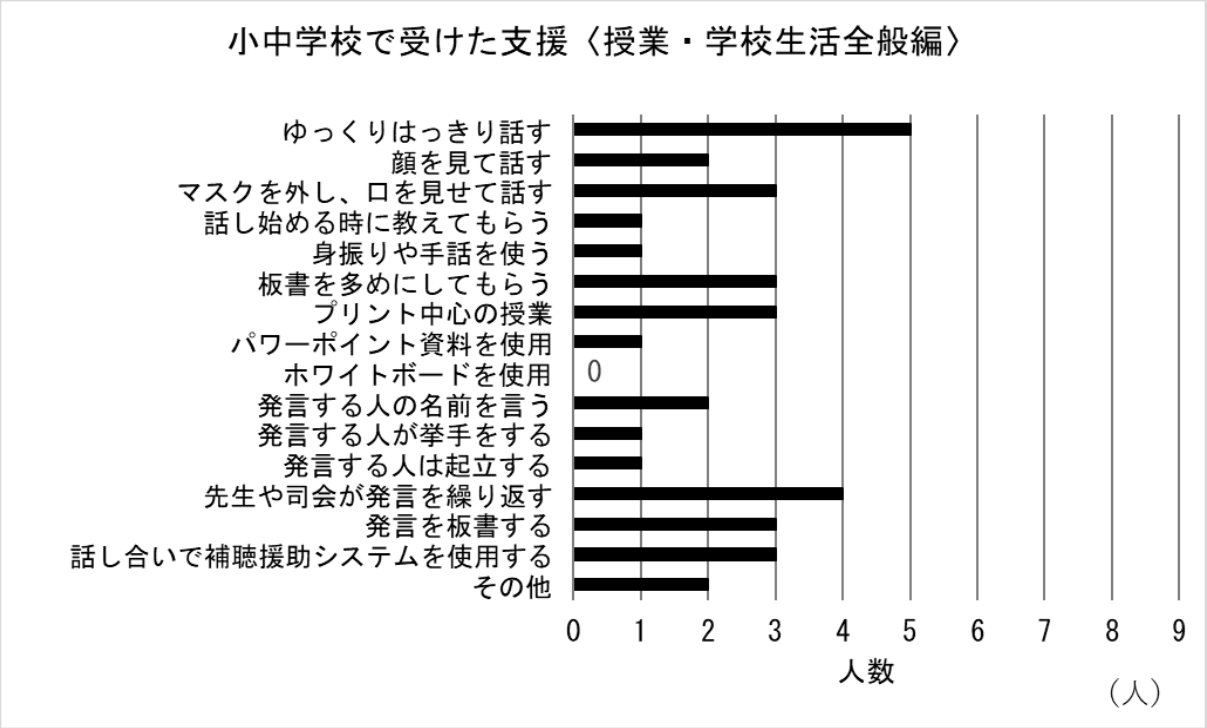
＜音楽編＞（複数回答可、無回答３名）



音楽は、「配慮なし」が２名、「鑑賞ではラジカセやスピーカーの近くに補聴援助システムを置く」が２名、「歌やリコーダーのテストは別室」が２名見られました。

その他にも授業全般や学校生活で受けてきた支援で良かったこと・ものを教えてもらいました。

＜授業・学校生活全般編＞



〇質問3：高校や大学ではどのような支援を受けていますか？

・ロジャーを使ってもらっている。
・試験を別室で受けている。
・机や椅子にテニスボールをはめてもらっている。
・視覚的な情報を使ってもらっている。例えば、資料やみんなの意見は iPad やアプリを用いてスクリーンに映す、手話の使用、板書。

〇質問４：「もっとこんな支援があったら良いな！」「こんな配慮をしてもらえると嬉しいな！」ということを教えてください。

・補聴器や電池をもっと安くしてほしい。もっとデザインにバリエーションがほしい。
・マスクを外してほしい。
・今の時期、マスクで困っているから、なるべく多く板書したり、マスクでも大きな声で話したりしてほしい。

コロナ禍で「マスクを外してほしい」とはなかなか言いにくいですよね。板書をしてもらったり、大きな声で話してもらったりと工夫をしているようです。それでも、マスクをして話されると聞こえにくいということは理解してほしいですよね。

○質問５：今まで難聴について悩んだことはありますか？また、それをどうやって乗り越えてきましたか？

・初めはなかなか自分から難聴であることを発信することが難しかった。
　→初めは親からでも良いが、少しずつできるだけ自分から言えるようにしていった。
・音程のとりづらさに悩んだ。
　→リズムを合わせることを意識した。数をこなして努力をしていくしかない。
・友人を増やすことが大事。良き理解者となってくれる。聞き逃しても教えてくれる。
・同じように難聴を持ってる人と話すと共感してもらえたりして、楽になる。
・周りの友達が補聴器とか難聴の事を理解してなくて、接し方とかに困ったが、少しずつ仲の良い子とかに話していくうちに、説明することにも慣れていった。理解してくれると一緒にいて居心地が良くなるので一緒にいて楽しくなった。
・家族や信頼してる先生に話を聞いてもらって多少は改善してきた。けれど、１番はやっぱり学校や友達との思い出。
・特に保育園、幼稚園、小学校低学年の子に「それ、どうしたの？」と聞かれて答えに困った。その時は「私は耳がきこえづらくて、つけてるんだ」と答えている。
・街中とか校内で歩いていると、ジロジロみられたりするけど、どうどうとしていると案外わからないもの。別に悪いことはしてないんだから、どうどうと！！それでも気になる時は外す。
・何回も聞き返すとウザがられる。そういう時は、最初に「紙に書いて」と頼むようにしている。

○最後に：サマーコミュニケーションスクールの感想や意見を教えてください。

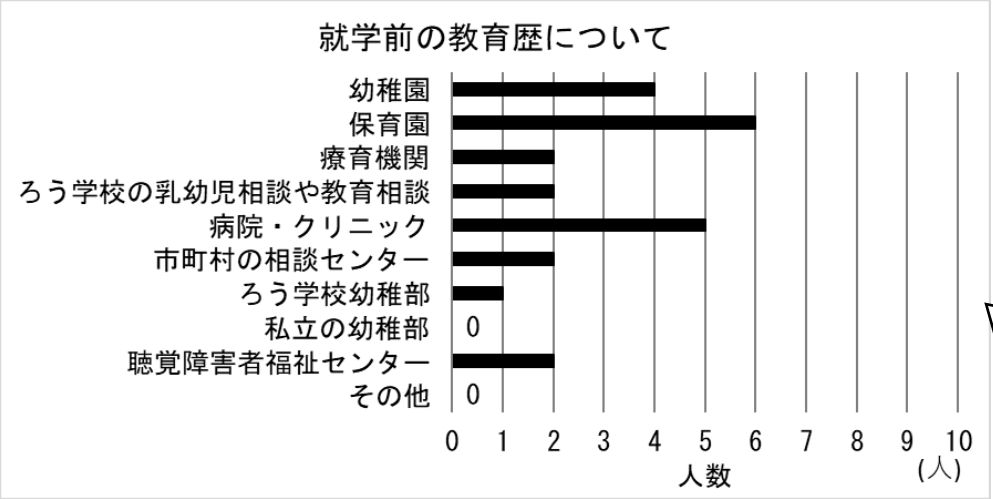
・普段はあまり関わらない人たちと、遊んだり話したりできて楽しい。どんな人にも伝わるように、いろんな工夫をしていて勉強になる。
・新しいつながりを持てる。行動力を養える。
・通級生同士で意見を出し合って内容を決めたところが良いところ。
・初対面の人と出会ってすぐに仲良くなれる！実際、私は年下の友達と仲良くなり、今でも連絡を取っていてたまに遊ぶ仲です。
・たまに集まれるのは良い機会だったし、楽しかったです。
・通級生で出し物を話し合ったり、いろんな子と仲良くなれる。何より、気をつかわなくていい。リラックスできた。楽しい！！

皆様の感想を読んで、サマーコミュニケーションスクールは、地域の小中学校、高校、大学に通う聴覚障害児・者が交流できる貴重な場となっているのだと思いました。来年度こそはサマーコミュニケーションスクールを行いたいですね！

保護者アンケート

10名の保護者の皆様からご回答いただきました。

〇質問１：就学前にお子さんが通っていたところはどこですか？（複数回答可）



幼稚園、保育園、ろう学校幼稚部に在籍しながら、療育・相談機関にかかっていた方が多かったようです。
グラフにはありませんが、小中学校では、通級指導教室(ことばの教室)に通ったり、ろう学校の教育相談を利用したりしていた方が多かったです。また、病院・クリニック、市町村の相談センター等にかかっていた方が数名見られました。

〇質問２：今まで支援や教育について良かったこと、大変だったことを教えてください。

＜就学前編＞

良かったこと

・定期検診で聴覚障害を発見してもらえた。しゃべることができていたので、親も全く難聴を疑っていなかった。
・病院の言語指導に生後半年から通い、順序を得て学び、綺麗な発音を取得できた。
・幼稚園は難聴外来のある付属幼稚園に行った。何人もの難聴児を受け入れていたため、幼稚園側からの支援の案が多く助かった。
・生まれてすぐに聴覚障害が判明したのが良かった。早くにわかったことで、子どもとの接し方やろう学校の支援を受けられたことに感謝している。
・ろう学校の季節の行事や日々の生活が楽しく、のびのびと育ったと思う。
・病院の言語指導が親の心の安定につながった。
・幼稚園の年長で難聴がわかったこと。
・療育先のアドバイスにより、親子で日々の生活を一緒に楽しみ、一緒に体験し、語彙力を高め、幼稚園に年少から入園でき、友達と会話をしながら遊べるようになった。
・聴覚障害者センターに通うことで、少しずつ聴こえについて理解できた。
・地域で同い年の補聴器をつけている子と交流でき親子共々良かった。

大変・心配だったこと

・補聴器をなくしたり、つけたままプールにはいったり、つけたがらなかったりしたこと。
・幼稚園に行く前に病院に週２回通い、下の子もいる中、言語指導の絵日記を描くことが大変だった。
・先々がとにかく心配だった。
・保育園で、難聴であることがわかり、一般の公立小学校に通うことができるのか、不安だった。
・人工内耳手術前後は日本語が獲得できるか心配だった。
・幼稚園の検査から病院へ行ったが、まだ小さいから難聴かどうかはわからないと言われた。言葉の話をしなければ見過ごされるところだった。
・どの時期も友だち付き合いをいつも心配していた。
・難聴だとわかった時に母親はできれば仕事を辞めて、育児に力を注ぐ方が良いと言われ、辞めた。
・言葉の遅れがあり、１歳半～色々な所へ見学、相談へ行き、複数の病院を受診し、約１年間子どもに合う療育先を探したこと。
・就学前健診で難聴を指摘された。たくさん医療機関を受診したが、難聴の程度や難聴が進行しないか位しか情報はもらえず不安だった。

＜小学校編＞

良かったこと

・通級指導教室（ことばの教室）で補聴器の手入れや付き合い方を教わったこと。
・ことばの教室に通い勉強、コミュニケーションの取り方、苦手な事をできるように指導していただいたことに感謝している。在籍校との間に入っていただける場所の大切さに気付いた。
・6 年生で、ろう学校教育相談を受け、難聴について生徒に話して頂いたこと。中学入学に向けて小学校の先生と一緒に中学に行き難聴のことについて話して頂いたこと。
・ことばの教室に通い、親も子も安心できたように思う。ことばの教室ではテニスボールを机につけることや在籍校との連絡を密にしていただきありがたかった。
・ことばの教室にて発音を見ていただき、小学校では教えていただけないことを子どもと一緒に教えていただけて安心できた。
・ろう学校の通級に通った。途中で指導の先生がかわられた時に、子どもが少し混乱してたが、いろいろな関わりもあり、とても良かった。中学になっても在籍校までろう学校の先生が来て、クラスの子に難聴の話をしたり、担任の先生とも話をしたりしてくれたので、とても助かった。
・同じクラスの友達になかなか理解してもらえなかった年もあったが、ことばの教室や保健室の先生方、習い事で友達がいたので居場所があったこと。
・聴こえについてことばの教室の先生が出前授業をしてくれ、クラスの子へ少し理解ができたと思う。
・小学校では友達との関係や勉強について不安でしたが、友達の方が親切に接してくれていて、振り返るととても良い環境で生活できていた。

大変・心配だったこと

・友達が補聴器に触ってしまい、修理することになった。
・毎年あるクラス替え。先生も毎年変わること。困ったことが言えない。
・小学校への説明は 1 人で行き、なかなか理解していただけなかった。小学校は難聴児を受け入れたことがなく一番不安だった。
・補聴器のことを人にきかれるのが嫌で本人が特性を隠していたこと。

＜中学校編＞

良かったこと

・補聴援助システムを使うことでより授業を聴こうとする姿勢になった。
・小学校の保健室の先生が、中学校の保健室にも 3 年間いてくれた。部活の先生、仲間と 1 対 1 で相談し合えたこと。
・平塚ろう学校通級指導教室にて補聴器の扱い方や他の学校の難聴の友達とも知り合いになることができて、これからの生活や進路も決めることができた。
・中学校は、とても協力的で力になってくださった。
・ろう学校では、苦手な勉強を見ていただき、細かな指導をしていただけた。相談にものっていただき親にとっても大事な関わりの場所でした。
・通級指導教室での英検や補習。何より先生方が話を聞いてくれて感謝している。
・通級指導教室で受検や補聴器購入の申請の仕方を教わり、助かった。

大変・心配だったこと

・英語のリスニングが全然できなかったこと。
・高校受験が不安だった。
・高校進学にあたり、普通校にするが、平塚ろう学校に通うか少し迷っていた。普通校に行った時のサポートがどこまで受けられるかわからない所もあったので、不安があった。
・語彙力等で友達とすれ違ったりしていた。聞き間違え、聞き落としがあっても「確認」することが難しそうだった。
・友だちづきあいが心配だった。中学の部活動では悩み、学校とも話し合ったが退部することにした。

＜中学卒業後編＞

良かったこと

・サマコミなど、時々声をかけて、ろう学校に呼んでもらえたこと。
・補聴器を見たクラスの子が手話が必要か本人に聞いてきた。
・入学してから英語のリスニングテストは、中学でやっていただいていた、プリント(英文)を見せてもらっていた話をすると対応していただけた（私立高校)。
・中学まで口話中心だったが、今のマスク生活では会話が難しいので、ろう学校の高等部を選択して良かったと思う。いろいろ挑戦していること。
・高校の先生とも電話で相談でき、問題なく高校生活を送っている。

大変・心配だったこと

・コロナの影響もあり、なかなかコミュニケーションがとりづらそう。
・スマホのイヤホンをする時にいちいち補聴器を外すので、そのままポケットに入れっぱなしにしたり、その辺にポイポイ置くこと。
・英語のリスニングに苦戦している。

＜今までを振り返って…＞

・どの時期も相談できるST（言語聴覚士）や先生、祖父母、友人の助けを受けてこられた事が良かった。
・保育園→小学校→中学校→高校入学まで支援を引き継いでいただけて良かった。

〇質問３：もっとこんな支援があれば良かったと思うことを教えてください。

・障害がある子どもが入学する時には、必ず専門の方が説明をしに学校に来てくださる支援を教育委員会からしてほしい。ろう学校の先生との関わりもなく知らなかったので、誰に対しても行ってもらえるようになってほしい。
・小さい時は、不安がいっぱいだったので地域にもっと相談できる支援があればと思っていた。
・ろう学校幼稚部の延長保育があると良かった。
・中学までは定期的に通ったり相談したりする場があったが、高校になるとなくなるので、親子とも不安や戸惑いがあった。高校に入ってからいろいろな機関に相談したりしたけれど、どこともあまりつながれなかった。継続してつながれるところがあると良いなと思う。
・手帳のない方への支援が欲しい。
・私立高校の難聴児（障害全般）の受け入れ窓口がもっと広がれば良いなと思う。
・小学校のことばの教室で個別指導の他に、同じ障害をもつグループでの学習があると、親子共に関わり方や情報交換ができる。同学年にいなければ異学年でもあると良い。
・口頭だけではなく、黒板に書いてほしいが、全ては書ききれないようなので、なるべく板書してほしい。会話が成り立つため聞こえていると勘違いされる。

〇質問４：お子さんについて、将来楽しみなことや心配なことを教えてください。

楽しみなこと

・これから先、どんな勉強をし、どんな職業につくのか、お付き合いする人ができるのかが楽しみです。
・就職が決まるのを楽しみにしています。
・現在、部活も入り高校生活を楽しんでいるようですので、大学も同様に自分に合ったことを見つけて選んで欲しいと思っています。
・社会人になって自分が難聴ということを自分で周りの人に理解してもらうため、自分でいろいろなことを考えるようになったことです。将来の自分について職も含めいろいろ考えているようです。どんな行動をとってくれるか楽しみです。
・何をやってもいいので、自分の輝ける場所を自分の力でつかんでほしいです。
・高校のうちに資格をなるべくとって、就職できると良い。

心配なこと

・聞こえのせいなのか、本人の問題なのかなかなか覚えられない事。
・スマホによる視力低下、ストレートネックが気になっている。
・高校卒業後の進路にかかわる選択科目を決める時期で、将来どんな職が向いているのかわからない様子。
・補聴器は必要でそれも高額なので、何かあった時に支援がなく、それが心配(中等度で手帳がないため)。親もずっと生きている訳ではないので。
・就職は、難聴が障害にならないか心配です。
・接客業なので、きこえにくさを心配しています。
・おかげさまで、自分で難聴のことは言えるようになりましたが、これから社会に出たらどうなっていくか。
・友達が少ないこと。コミュニケーションがとれないままで社会に出られるのが不安でたまらない。
・就職、進路が心配。

アンケートにご協力してくださった皆様、ありがとうございました。聴覚障害のある子どもたちが感じてきたこと、保護者の方々の思いに触れることができ、支援や教育がもっと充実するように頑張らなくてはいけないと思いました。

また、最後まで読んでいただきありがとうございました。今年度は、紙面での情報交換しかできませんが、来年度は顔を合わせて、交流や情報交換をしたいですね。オンラインを活用するなど、何らかの形でサマーコミュニケーションスクールを実施したいと思っています。6 月頃にお知らせを掲載いたします。